女性医師支援センター便り

第15回男女共同参画フォーラムの開催

宮城県医師会常任理事
宮城県医師会女性医師支援センター委員
福　與　なおみ

第15回男女共同参画フォーラムが７月27日，「男女共同参画のこれまでとこれから－さらなるステージへ－」をテーマとして，仙台市で，日本医師会が主催し，宮城県医師会が担当県として開催されました。

フォーラムは，安藤由紀子常任理事の司会で進められ，はじめに橋本省副会長による開会宣言で幕を開け，３名（横倉義武日本医師会会長，佐藤和宏会長，村井嘉浩宮城県知事）による挨拶が行われました。

横倉義武日本師会会長

村井嘉浩宮城県知事

佐藤和宏会長

その後，本橋ほづみ東北大学加齢医学研究所教授による基調講演が行われました。本橋先生の研究テーマであるNRF2遺伝子の抗老化作用が紹介されました。研究と両立されてきた子育て介護のエピソードが盛り込まれ，聴衆の誰もが興味を持って熱心に聴いていました。

続いて，日本医師会の小笠原真澄男女共同参画委員会委員長と，小玉弘之日本医師会常任理事からそれぞれ報告があった後，シンポジウムが行われました。シンポジウムでは，３つの演題がありました。

１つ目は，これまでのカリキュラム制での専門医取得から新たなプログラム制での専門医取得への変革期に直面している研修医や医学生の期待や不安が紹介されました。福與から旧制度と新制度の違いを簡単に述べた後の，東北大学医学部医学科６年生の岩田彩加さん，東北大学病院初期研修医２年目の横山日

本橋ほづみ先生

横山日南子先生，岩田彩加さん，福與なおみ

南子先生お二人の講演により，切実な想いは，会場に伝わったと思います。

２つ目は，髙橋克子宮城県医師会女性医師支援センター長から，日本医師会における男女共同参画に関する学会，医学部，医師会におけるアンケート調査の５年前との比較が紹介されました。「着実に変化し，良い方向へと進んでいる」ものの，女性にはやはり「ガラスではなくコンクリートの天井がある」現実に対し，「多様性を認める」必要性などを話されていました。男女共同参画のこれまでの歩みがよくわかる内容で，５年前とのアンケート結果の比較という膨大な内容を検討された髙橋克子先生に，聴衆の誰もが感謝していました。

髙橋克子先生

３つ目は，力山敏樹自治医科大学附属さいたま医療センター副センター長から，自ら実践されてきた女性外科医が働きやすい環境作りが紹介されました。「問題や目標は十人十色で，それぞれ丁寧に対応することが大事になる」ことに，納得していた聴衆が多かったです。

力山敏樹先生

その後の総合討論では，佐々木悦子常任理事と髙橋克子センター長の座長によりシンポジストと参加者との間で活発な意見交換がなされました。コメンテーターとして出席された今村聡日本医師会副会長は，「学生や若い医師の声を直接聞き，心が痛んだ」とした上で，「日医としてもしっかり取り組んでいきたい」と，理解を示し協力を惜しまない姿に，とても心強く感じました。

今村聡日本医師会副会長

最後に，今回のフォーラムの成果としてまとめられた宣言が髙橋克子センター長から読みあげられ，満場一致で採択された後，橋本省副会長の挨拶で閉会を迎えました。

１年以上も前からの準備でお世話になった宮城県医師会の役職員の皆様，そして当日参加して下さった宮城県医師会員の皆様に感謝申し上げます。

第15 回男女共同参画フォーラム宣言採択

宣　　言

日本医師会男女共同参画フォーラムが平成17 年に初めて開かれて以来14年の活動で得た成果を基盤にし，医療においてもワークライフバランスが重要という意識を確信した。この活動のさらなる発展を図るために，男女を問わず医師の働き方改革を進めながら，国民の医療に大きく貢献できる段階へと進化させることを決意し，以下，宣言する。

一，多様な働き方を認め，男女を問わず豊かな医療人を育む

一，指導的立場の女性医師を増やし，2020.30 運動の理念を医師会・大学・学会ともに連携して推し進め結果を出す

一，医師を目指すすべての人に対する，医育機関での公平で公正な対応を求める

令和元年７月27日
日本医師会第15回男女共同参画フォーラム